

## JBL4350A 奮闘記(4) —パワーアンプの選択—

### 1. 始めに

前報(3)のプリアンプの選択に引き続き、パワーアンプの選択の経過について述べますが、実施は前報(2)のマルチアンプシステムの調整および前報(3)のプリアンプの選択と並行して行ってきました。

### 2. 低域用のパワーアンプの選択

当初はオリジナルの 8045G を使用した Luxkit A-3000 でしたが、球の寿命の関係からすぐに KT88 の GOLD LION に替えました。この球の音は気に入っていましたが、阪神大震災の時に破損し、GEC 製に換装しました。さらにもっとよいものはないかと、友人やショップの協力を得て、UV211、6550pp、6AS7G の OTL アンプ、アンプジラなどを借りて試してみましたが、一長一短で現状を変えようというところには至りませんでした。その後、偶然、ヴィンテージショップでヒースキットの W-6M という KT88pp アンプ(写真)を見つけ、ピアレスのトランスを積んでいることも魅力があつてこれを購入しました。購入時は 6550 のロシア球でしたが、GEC の KT88 に差し替え、初段や位相反転段も TELEFUNKEN の刻印などに替えて満足できるレベルになりました。

### 3. ミッドバスからツイーター用のパワーアンプの選択

当初は、レイセオンの 6336 を積んだ Luxkit の KMQ80 を使用していましたが、球の寿命の問題もあって、オーディオ誌上で評判の良かった Exclusive M4 に替えましたが、期待どおりとはいかず、おまけに再々石が飛んで修理代が高むため、Pilotone 5881pp、Pilotone 6V6pp や友人の 2A3 ロフチンホワイト、VT62s などを試しました。Pilotone 6V6pp はまったくのジャンク品でしたが、フランスマツダの 6V6 を奢ってやると随分良い結果が得られました。その後、低域用のパワーアンプとの相性を考え、ヒースキットの W-5M という KT66pp を見つけ、中国球の KT66 を GEC 製に替え、初段の球を変えたりしてかなり満足のいく結果が得られました。さらに、ショップに組んでもらった RCA の 45 のナス球を使った 45pp(写真)にたまたま替えてみたところクラシックにはこちらの方が向いているかなという意外な結果になり、現在に至っています。

### 4. スーパーツイーター用のパワーアンプの選択

当初は、オール Lux ということで比較的低価格の Lux の SQ503 からスタートしましたが、やはり真空管アンプの方が良いかなと思って、三栄無線 EL84s や Pilotone 6V6pp を試し、現在は Pilotone 6V6pp(写真)に落ち着いています。面白いことに 6V6 には単独では良い音がするフランスマツダはスーパーツイーターが出しゃばりすぎるような気がして、Westinghouse 製に替えて現在に至っています。



#### 5. マルチアンプシステムにおけるアンプの選択

マルチアンプシステムにおけるアンプの選択についてはできるだけ音質を揃えるようにとか、いろいろ言われていますが、一つアンプを替えるとレベル調整はもちろんのこと、音色ががらがら変わってしまいますので、試行錯誤が非常に大変です。しかも、一つのアンプの球を替えても音色のバランスが変わりますので、簡単には結果がでません。期待したアンプジラや M4 がそれほどでもなく、ヴィンテージの壊れかけたようなものが良かったりして思ったとおりにいかないのが実情です。また、それぞれのアンプへの RCA ケーブルやアンプから各帯域のユニットへのスピーカーケーブルも問題で、帯域毎に最適のものを見つけていく必要があります。

こういう経過で結果的にはハイエンドから外れてしまい、ジャンク品の再生品みたいなものばかりになってしまいましたが、流れの中でそうになってしまっただけのことで主義主張があつてのことではありません。

以上

